



園だより 6月号

Y M C A 保育園ねがい
2024年6月3日発行

「見よ、それは極めて良かった。」 創世記1章31節

私の宝物は大きくて分厚い「聖書」です。（古い約束＝旧約39, 新しい約束＝新約27の「書」からなる本）聖書の最初が「創世記」で、神がこの世界を創られたと記されています。

ひとり一人に命が与えられていることをどのように考えたら良いのでしょうか？命については、人類がずっと考え続けてきた問いなのでしょう。病気や災害、事故によってかけがえのない命が失われると、自分が難を免れ、今ここでこうして生きている奇跡に気づきます。

天地創造のメッセージは、この問いの答えの一つなのだと思います。

美しい自然と生き物、地球と天体はいったいどのようにしてできたのか？人間は？偶然とは考えられないけれど、全てを計画的に行う事がはたしてできるのか？もし、全知全能の意思が存在するならスーパーマンを神と呼ぶしかないと思います。

聖書には、神様が「海と大空」「植物」「太陽・月・星」「魚・鳥・動物」そして人間を創られたとあり、「神はお造りになったすべてものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。」と書かれています。私たちは神様から「とても良い」「VERY GOOD」と言われ、愛された存在として今を生きているのではないのでしょうか。

5月の礼拝では乳児クラスも幼児クラスも担当の保育者が子ども達に「VERY GOOD」を伝えてくれました。Vサインをする子ども達の笑顔は輝いていて、私はその笑顔に神様の愛と希望を見つけました。愛されている自分が自分のことを愛し、自分と自分以外の人を愛し続けたいと願っています。

えんちょう いまいせつ
(園長 今井世都)

